



## 第 62 号

2018 年 11 月 15 日発行

発行所

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団  
障がい者総合福祉施設アガペセンター  
〒252-0002 座間市小松原 2-10-14  
TEL 046-254-7111 FAX 046-255-2915

ホームページアドレス

<http://www.agape-jcws.com>

### 法人創立六〇周年を迎えて

アガペセンター長

田中 誠一



アガペ第一、第二作業所、アガペ吉番館、アガペサポートセンター（障害者総合福祉施設アガペセンターと称しています）の運営法人であります「社会福祉法人日本キリスト教奉仕団」は、一九五八年八月に設立認可され、六〇周年を迎えることができました。この六〇周年の記念すべき日を迎えられましたことは、法人の設立前より「日本国際基督教奉仕団」として係わっていたいた方々をはじめ、関係行政機関等多くのボランティアとして物資両面から支えていただいた皆さまのご指導、ご支援の賜物と心より感謝を申しあげます。法人設立に至るプロローグをひも解いてみますと、第二次世界大戦における敗戦直後の日本国民の空腹を満たした「ララ物資」。

このララ物資は、アメリカとカナダの十三団体が採った共同救済事業でした。食糧や医薬品、衣類、綿及び原反等を満載にして、一九四六年から一九五一年の六年間に二百隻以上の貨物船が横浜港に着き、全国の病院や養護施設などに救済物資の配分を国から任せられたのが当法人の前身です。ララ物資（教会を中心とした人々が、以前の敵国の人々が飢えていれば自分の昼食代を節約しても献金をしたアメリカ・カナダの国民の行い）に感謝し、感動と感心を法人の「ミッション、ビジョン、理念」としていつばいつば歩んでまいりました。

さて、法人六〇周年をアガペセンター事業の推移で振り返ってみますと、一九六一（昭和三十六）年四月に東京都杉並区高井戸に福祉工場「アガペ作業所」を設立し、一九六四（昭和三十九）年六月に現在のアガペセンターがある座間市小松原に身体障害者授産施設「アガペ授産所」を開設し、杉並区の福祉工場を閉鎖しました。その後、座間市小松原に福祉工場「自立社」、重度身体障害者授産施設「アガペ第二作業所」を開設してまいりました。障がい者支援サービスも時代と共に変化し、日常生活全般に介護を必要とする重度身体障害者の生活施設としてアガペ吉番館本館や南館が開設されました。また、

自立社や旧アガペ第二作業所を閉鎖し、身体障害者支援の実績を活かして知的障害者の就労並びに短期入所事業所として、新アガペ第二作業所を整備すると共に、知的障害者の日中支援事業所である座間市立「もくせい園」の指定管理並びに児童発達支援事業「サニークッズ」の受託運営を任されてまいりました。更に、知的障害者のグループホーム二か所を相模が丘地域に整備し、地域生活支援を進めております。これからの利用者が生まれ育った地域で暮らせる場の確保に努めてまいりたい。

社会福祉法人の責務は多々ありますが、事業規模の拡大だけが良いことではありません。当法人の元理事であります阿部志郎先生も、「今の、社会福祉法人は事業の拡大のみにとらわれ、それが社会ニーズであると錯覚してしまう」とおっしゃっています。利用者の心の声に耳を傾け、諸先輩方が築かれたアガペロードを、法人並びにアガペセンターとして身の丈に合った推進をしてまいります。

利用者の高齢化、重度化をはじめとした多くの課題対応、時代の要請に即した事業所運営に心掛け、全ての職員で七〇周年に向かって精進をしてまいりますので、関係各位のますますのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 入居者で作る「ひまわりの会」

自治会 会長 廣木 敬

アガペะ番館には「ひまわりの会」という自治会があります。自治会員は、アガペะ番館の入居者全員で、日常生活のさまざまな問題や疑問について互いに意見を出し合い、それを解決し、より良い入居生活につながることを目的としています。

同会は全入居者より選出された会長、副会長、書記、会計、計四名の役員があり、任期は二年で、再立候補も可能です。

主な会長の活動は、毎月行われる入居者会議と年三回行われる総会への出席、かながわ障害福祉ネットワーク（Kフレンド）の委員さんとの意見交換です。入居者会議や総会では施設や役員で検討、決定した内容を報告し、入居者さんから意見が出たら毎月の役員定例会に持ち帰り議論し、内容によっては検討し、施設に改善依頼をします。その結果を次回の入居者会議や総会で報告という流れで活動しています。



役員会の廣木会長（左端）

Kフレンドさんは、アガペセンターに毎月一回来所されます。他県内施設にも訪問されていますので、そこでのサービスの現状や入居者さんのさまざまな「声」に関する情報や意見をお持ちです。なかには「ひまわりの会」で取り入れた内容もあり、自治会活動や施設への提案、検討依頼の参考にしています。障害を持つ者同士だからこそ分かり合えることがありますので、私たち役員は入居者さんのどんな「声」にも耳を傾ける姿勢を忘れないようにしなければいけないと思います。

総合相談室は、アガペセンターの入所や通所の利用者さんに限らず、座間市内に住む、身体、知的障害のあるすべての方を対象に相談をお受けしており、ご自宅への訪問もしています。

座間市内は坂が多く、車を停めるスペースが近くにないご自宅への訪問もしばしばです。そこで活躍するのが、「勾配のぼる」です。この愛すべき電動アシスト自転車は二年前の秋に購入しました。私たち相談員の業務を後押ししてくれています。

私たちが日ごろ関わっている方は二百名ほどになります。とくに困ったことがなくて、何年もお会いしていない方もいれば、ご自宅の状況が大変で



「勾配のぼる」  
が  
アシストします

足繁く通ってお話をうかがい、相談にのっている方もいらつしゃいます。

誰もが生活していく上で、調子の良いときも悪いときもありますが、障害をもってしていることで、調子が悪いときに問題が大きくなってしまっていることがあります。

人生の上り坂、上るのはご自身ですが、誰かの後押しが大切です。

私たち相談員が、みなさんの「勾配のぼる」となってアシストできればと思います。

総合相談室 相談員 野村 暎

## 買い物外出 人気第1位!

地域支援課 主任 沼澤 祐介

生活介護では、春と秋の遠足の他にもさまざまな外出を実施しています。いずれの企画も好評で、職員一同ほっと胸をなでおろしています。

中でも、直近の外出企画で好評だったのが、「イオンモール座間買い物ツアー」です。通常の買い物外出では、せわしない、ゆっくり買い物したい、外食も、などの意見が挙がりました。そこで今回は給食を欠食し、最大二時間半のツアーを二か月に渡って実施しました。



事前にパンフレットを見て「肉!」と決めていた方や、現物を見てから決めるといふ方など、皆さん行く前からとても楽しみにしていました。参加された方からは、すぐに第二回ツアーの要望が挙がるほどでした。

集グループだけではなく、ハンモックグループも、外食にフードコートを利用し、同様に好評で、両グループともに「イオンモール座間」が、ダントツで買い物外出人気第一位となっています! この勢いは、まだしばらく続きそうです。



## 利用者さんの健康診断

診療所 看護師 塚田 かおり

何日も前から利用者さんの心はざわつきませす。自分の番は何時なのか、採血は痛くないか、Tシャツは何色でもいいかなど、皆さん様々な質問をしに診療所にやって来ます。利用者さんにとって、健康診断は一大行事です。

七月十二日木曜日、壱番館利用者さんの健康診断当日です。健診センターのスタッフが、手際よく各機材を会場に設置し、予定通りスタートしました。

あれあれ？ 四十分も前から並んでいた〇〇さんが見当たりません。待ちくたびれて戻ったのですね。「始まりましたよ、来てくださーい。」「あら、ボタン付きのシャツ着てますね、脱ぎますよー。」「おやおや、採血台の前で固く腕組みして動かない人がいます。」「大丈夫怖くないですよー。腕伸ばしてください。」「冷や汗と笑いを交えながら、利用者さんの健康診断は終了しました。皆さんほっとした表情で会場を後にし、それぞれの部屋に戻ります。



毎年、健康診断の日の利用者さんの服装の準備や会場への送迎、生活スケジュールの調整、会場準備など、たくさんの方々の職員に手伝ってもらっています。健診センターのスタッフも、利用者さんの特性を理解して丁寧に対応していただきます。関係者の皆さんには感謝の気持ちでいっぱい



です。安全に、確実に健診を受けてもらい、私たち看護師は利用者さんの健康を守るための支援をこれからもしていきます。

## 防災への取り組み

座間市サニーキッズ園長 永田 智子



マニユアルが整い、昨年からは職員勉強会では、「災害時に自分がどのような状況に置かれ、何を思い、どう動くか」をイメージする取り組みを始められています。今年度は避難訓練後の実施となり、想像も具体的で、多くの不安や課題が出てきました。避難行動について共通理解はありますが、災害は時を選ばず起こるもので、場面に応じて各々が判断することが求められると再認識されました。命を守る行動を体に馴染ませ、対応等について、日常的に取り扱うことが防災への一歩であると感じました。

子どもたちには、年に数回行われる避難訓練の中で、机の下にもぐる、防災頭巾をかぶる、何も無い時間を待つことなど、必要な行動がとれるよう、経験の機会を設けています。当初は泣きながら戸惑う様子もありましたが、訓練を重ねる中で応じることができるようになってきています。

訓練を振り返り、避難グッズや備蓄食の点検を行う時間は防災への意識が高まる瞬間です。地震や台風、大雨など様々な災害が頻発する現状においては、防災を身近な課題として捉え、不安ではなく安心を積み重ねる取り組みをしていきたいと思います。



静かに待つ訓練

## 同窓生は



小泉たつや さん

現在のお仕事について教えてください。

私は、特例子会社ウエルシアオアシス株式会社で働いています。ドラッグストアの、商品の品出しや補充をしたり、発注や接客が主な仕事です。

働いてみてどうでしたか？

自分に合う仕事で、やりがいもあり楽しく取り組んでいます。これからもっと効率よくできるように頑張りたいと思っています。

働いて嬉しかったことはなんですか？

お給料をもらえるようになり、自分の欲しい物を自由に買ったり、友達と旅行に行けるようになったことです。最近では大阪のUSJに行ってきました。

アガペの利用者さんに一言お願いします。

働いていると、つらいことや人間関係の悩みなど色々ありますが、成長できる機会だと思っているので、皆さんも前向きに頑張ってください。

# 作業活動

生活支援員 三浦 知行

もくせい園では「生きがい」や「社会参加」、「自己実現」、そして「利用者さんの居場所づくり」を目的に、作業活動を取り入れていきます。主に午前中に利用者さんの障がい特性や相性に配慮し、紙すき作業、ビーズ作業、切手作業に分かれて行っています。今回は主に私が担当している切手作業を紹介したいと思います。

## 切手作業

回収した使用済み封筒から切手を水に浸してはがし、板に貼りつけて乾燥させます。その後種類分けをし、業者に買い取ってもらうことで、古切手は大切な収入源となっています。

## 作業環境

利用者さんが安心して作業に取り組みやすいように、パーテーションや個別机を設置し、個別のスペースを確保しています。また、作業内容や量を一定にしたり、作業の始まりと終わりを視覚的にわかりやすくすることで、利用者さんが見通しが持てるように配慮しています。

## 利用者さんの様子

ある利用者さんは、作業時間になると、誰よりも早く席に着いて作業します。一度作業を開始すると最後まで集中して行い、作業後は、扇風機で涼んでリラクセスします。

## 切手収集

利用者さんが座間市役所やコミュニティセンターなどに回収に向かいます。その際、地域の方々から声をかけていただくことがあります。すると利用者さんは自発的に挨拶をされ、周囲が和やかな雰囲気になります。また、切手を直接園に郵送して下さる方もいて、多くの地域の皆様に見守られながら活動していることを実感します。



## もくせい園 活動報告

また、ある利用者さんは、自身のスケジュールに沿って過ごします。十時になると作業をセットし、調子のよい時は鼻歌を歌いながら作業に取り組みます。作業終了の際はスケジュール表に花まるをつけます。その後はソファで次の予定までリラクセスします。

作業場面における取り組みが、利用者さんの自立的に過ごせる機会につながると私は嬉しく思います。利用者さんの思いや意向を実現できる支援をしていきたいと思っています。

## 共に生きる

高座教会 宮城 献

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、〈中略〉こうしてキリストは、双方をご自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、〈中略〉十字架によって敵意を滅ぼされました」(エフェソの信徒への手紙二章一四―一六節)

キリストの十字架は、私たちの隔ての壁を取り壊すためものだと、聖書は、言っています。キリストの十字架は、あらゆる隔ての壁を超えて、私たちが神様に愛されているということを示し(あか)しているからです。時に、私たちは自分と違った性格個性、アイデンティティを持った方に出会うと心の中に壁を作ってしまう。その壁は、自分を守ろうとして作られたものですが、その壁の向こうにいる人と心を通わせることができなくなってしまう。そのような時にこそ、キリストの十字架を見上げて、神様に愛された者として、愛し合い、「共に生きる」世界を祈り求めていきたいものです。



## 車両配備の報告とお礼

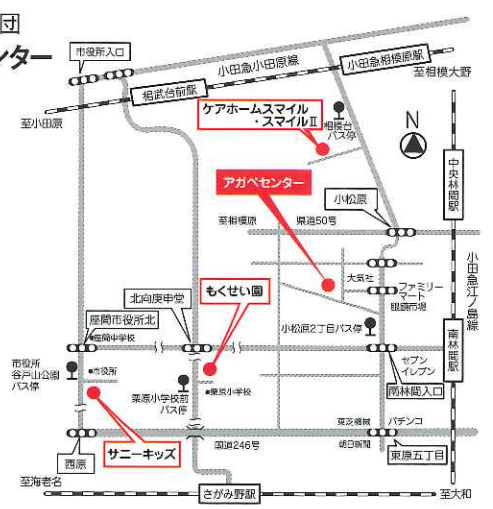
この度赤い羽根共同募金の助成を受け、リフト付き車両を配備することができました。ご寄付いただきました多くの皆様の善意に對しまして、心から御礼申し上げます。今後も新しい車をフルに活用し、地域福祉の実現に貢献していきます。



## 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団

### 障がい者総合福祉施設 アガペセンター

- 障がい福祉サービス事業所 アガペ第1作業所・第2作業所
- 障がい者支援施設 アガペ書館
- 障がい福祉サービス事業所 生活介護事業 相談支援事業(総合相談室) アガペサポートセンター
- 障がい福祉サービス事業所 座間市立もくせい園 (〒252-0014 座間市栗原中央6-7-27)
- 児童発達支援事業 座間市サニーキッズ (〒252-0021 座間市緑ヶ丘1-2-1 総合福祉センター(サニープレイス)内)
- 障がい者グループホーム ケアホームスマイル (〒252-0001 座間市相模が丘2-32-24) スマイルⅡ (〒252-0001 座間市相模が丘2-32-2)



※写真は関係者承諾の上、使用しています。